

気刊

アトリエ通信

総力特集 VOL.7

- Primitive内山
- Cubists菅谷
- Tearful山中
- Moderate河村
- Suddenly宗森
- Progress松久
- Material大橋
- The time has come新井
- Marionette藤井
- Artisan間山
- Japonesque瀬尾

Happy Madmen 展総括

復刊記念企画

アトリエ通信

総括

「旧 丘馬展」
ハッピー・マッドメン

展

「室生三名」というアトリエ始まって以来の、弱小部隊―危機的状況の中ではあったが、OB/OGの協力も得て、本年度の作品発表会を無事に終了することができた。

ここに、全作品の写真を掲載することで、記録として残すと同時に総括しておきたい。

① 会場について

過年度の卒業生の中には、大学「小ホール」と言われてもピンとこない人も多いと思うが3年前頃出来た、新しい施設である。天井も高く、広さの点では気持ちが良い空間である。

昨年の初めにここに約百万円の予算

で展示パネルが設備されたことで、展示会場としての機能が整備された。

旧・丘馬展ではすでに2度利用しているが、パネルを使用しての展示は初めてである。今回は作品数もちょうど良く、まとまりのある展示ができた。

② 案内状などについて

OBとの連絡等もあり、実働隊員3名ではしゃれたことも出来ず、案内状はコピー機を用いることとなった。

しかしながら、3年の間山君のハイセンスなレイアウトによりなかなかナウイパンフが仕上がった。

OBからのコメントが少なかったのがやや残念である。

③ 展示作品について

本来は夏期に行われるはずの展示会であるから、冬にズレこんだ分だけ作品の中身が濃くなっていることを感じた。

とりわけ個々の作品が単体として自己完結せずに、複数の作品が展示の場で組まれることで、個人のイメージをより強く表明することが出来ていたようである。

その点では会場全体の雰囲気がある種の新鮮さ・統一感を持ちえたともいえるし、より現代的な展示形態へのステップを踏み出したとも言える。

展示というものは、作品を制作することと同様、表現活動の重要な要素で

あることをこれまで以上に感じとることが出来たのではないかと考える。もちろん日々の雑務に忙しいOBGにそこまで望むことは難しいかもしれないが、せめて在校生だけでも、他者へのイメージ伝達の方法としての展示効果を踏まえた制作を期待したい。

さてOBGの諸君へ

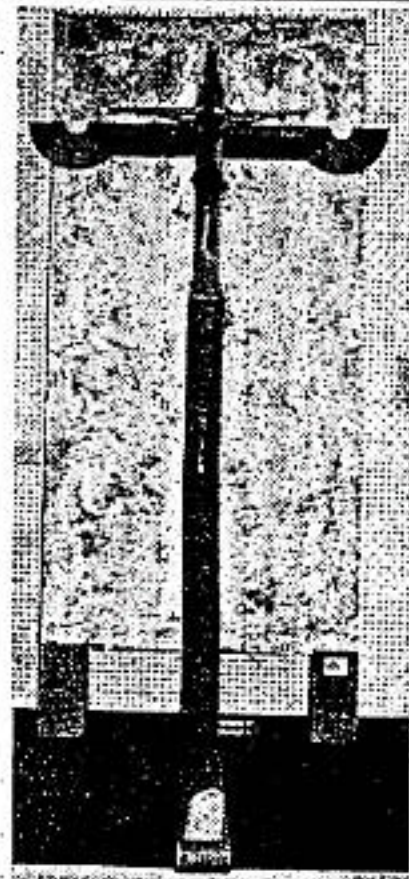
今回は制作期間も充分とは言えない中を出品ごころうさまでした。出品はしたものの展示そのものは見られなかった人も多かったと聞いています。私も期間中に不幸があったりし、顔を合わせることも出来ず残念に思えました。次年度も実施したいと考えていますので、ぜひ各自の年次計画の中に加えてもらえたらと思います。

(9.0.2.10)

「道新」'90.1.31

道教大綱路分校絵画研究会
研究室第一回「HAPPY MADMEN」展
岡山 正樹、三ツ川 鋼路
市橋ケ位三丁目四ノ一
三十八年続いた「巨馬展」

四季彩



の名称を変えて初の展覧会。作風が時代とともに変化し、名前の響きが重くな

大変毛の蓋座で拾った流木、石でイメージを彫らさせた「Patio」一年真に根差す技術が生んだもの。の横に広がる曲線部分は、単純で力強さを感じます。

今、伝統工芸に興味を持つています。織物、漆塗り、陶器、染織、深絞り、の職人を訪ね、札幌や旭川へも出かけました。作家になりたいたいと思っているのですが、大学を出て、どうやって修業したらいいんでしょう。

(二月三日まで、鉚路市城山一、道教大綱路分校小ホール)

「創新」'90.1.31



小ホールでの作品展

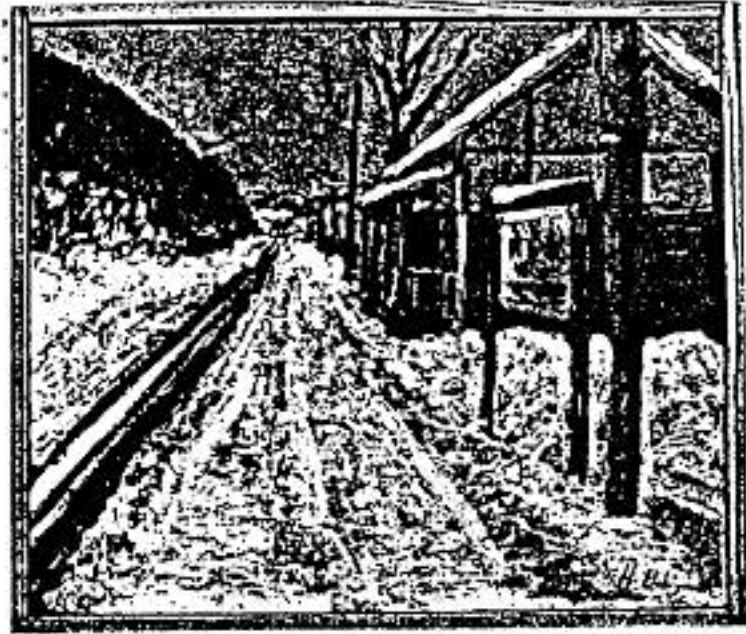
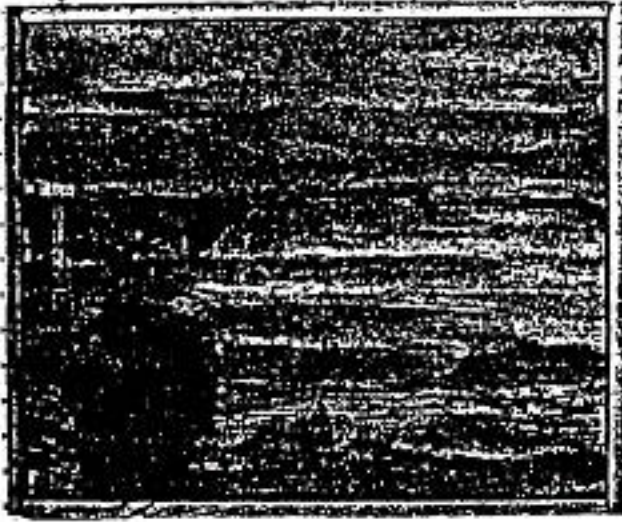
若さに進む造形活動報告展

道教大綱路分校
道教大綱路分校の絵画研究会が、同校小ホールで造形

活動報告展を三日まで開いている。水彩、油彩、立体などバラエティーに富んだ作品展で、十人が出品している。同展は三十八年間続けてきた巨馬展を改称したもの。出

品者は麻井つかさ、湘尾理貴、岡山正樹さんの現役組と新井繁史教官、またOBの内山博之さん、山中哲也さん、菅谷美穂子さん、河村秋穂子さん、大橋拓さん、松永充生さんの作品も展示している。いずれも抽象作品が主流だが、その

ユニークな感性と若さのじわが作品は新鮮さにあふれている。



内山博之 油彩・8、10号・風景2点

卒業後も地道に描き続けていることが分かる作品。「左」の絵は最後にかけた絵の具の処理が悪く、コピーでは内容が分からなくなってしまった。共に素直な描写であるが、反面、面白味に欠ける。より造形的な観点での画面づくりに向かってもらいたい。



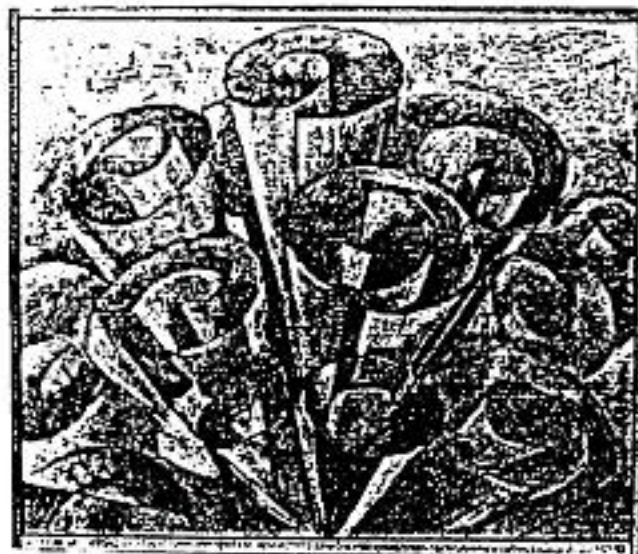
菅谷蒼紫子 油彩・50号・半具象

意欲的にキュビズム的な造形に挑んでいる
在校中の泥くささが抜け、色彩の処理も良
い(うまくなった)。今後は、ただのキュ
ビズムでなく、自分独自のキュビズムに向
かってほしい。



山中哲也 油彩・8号・具象

額はこちらで付けたものだが、もう少し意
欲がほしい。きっといろいろ忙しいのだと
思うが、ただのサラリーマン教師にならぬ
よう奮起してほしい。悲しくなってくる絵



河村絵理子 油彩・10・2点

「これ」「それ」

「1度塗っただけなんです。塗り残しもあるし・・・」と、恥ずかしそうに持参したものであるが、どうして、なかなか良い。淡い色彩にまとめられて、清々しい感じをあたえる。「描く中身に意味を与えない」という点に気付いたところがエライ。この調子でガンバレ!



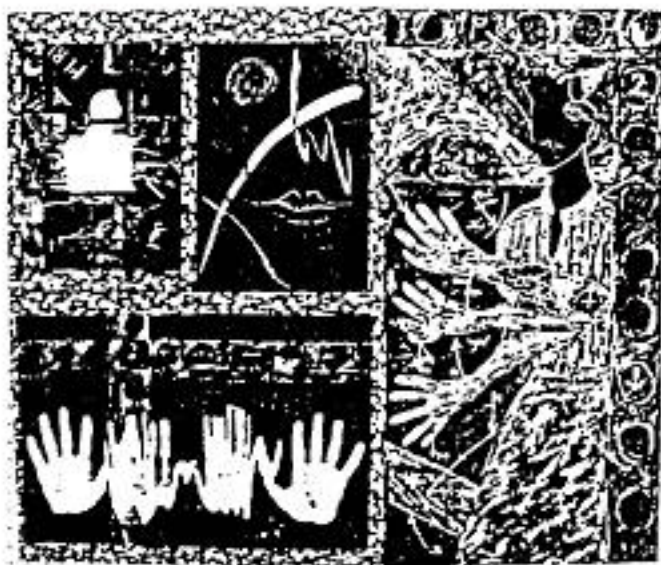
宗森研介 水彩・4号

「熱いハート」 展示の前日、偶然あらわれ、これを描き残していった。画面右下に♡がある。2年前の卒制そのままだが、気軽にサラリとこんなものを描けるだけでも美術科を出た価値があるといえる。



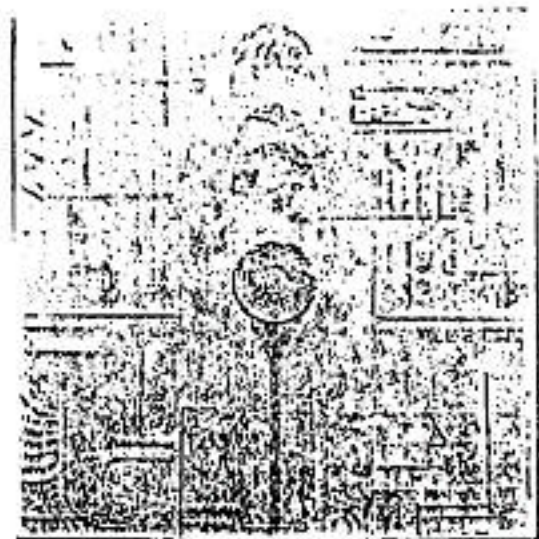
新井義史 布、紙コラージュ・50角

「Chat-ふたり」 赤・黒の布を背景に和紙に染料・ごふん等をドリッピングしカットしたもののコラージュ。残り物を寄せ集めた割りには、インパクトのある画面が出来た。



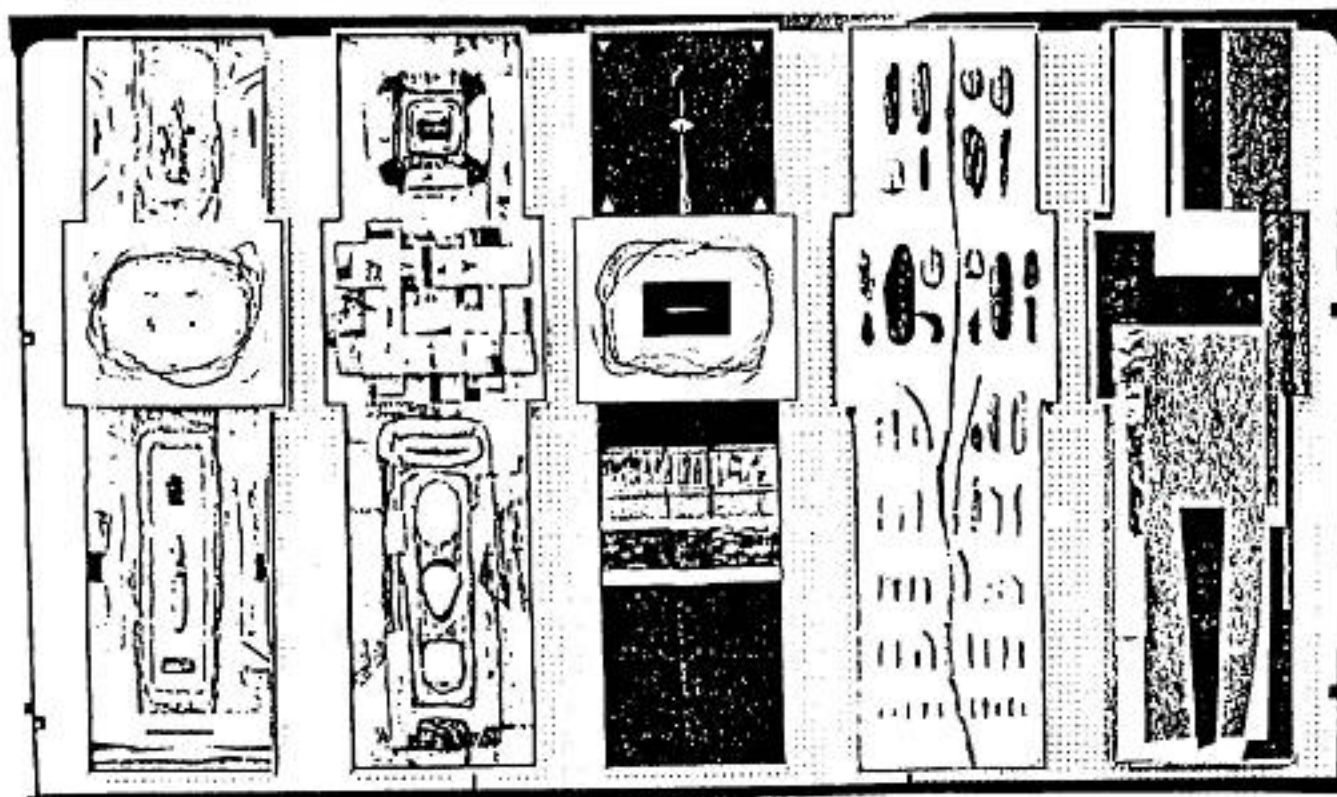
松久充生 コラージュ・Painting 約50号

「日本で地味なら サイパンじゃもっと地味」 日頃から頑張っている噂を聞いていたが、素晴らしい作品を持ってきた。「ヘタだ」ということを敢えて認めたところに彼の表現の強靱さが芽生えた。ここまでたどりついたらもうずっと描き続けられる。一層ガンバレ。



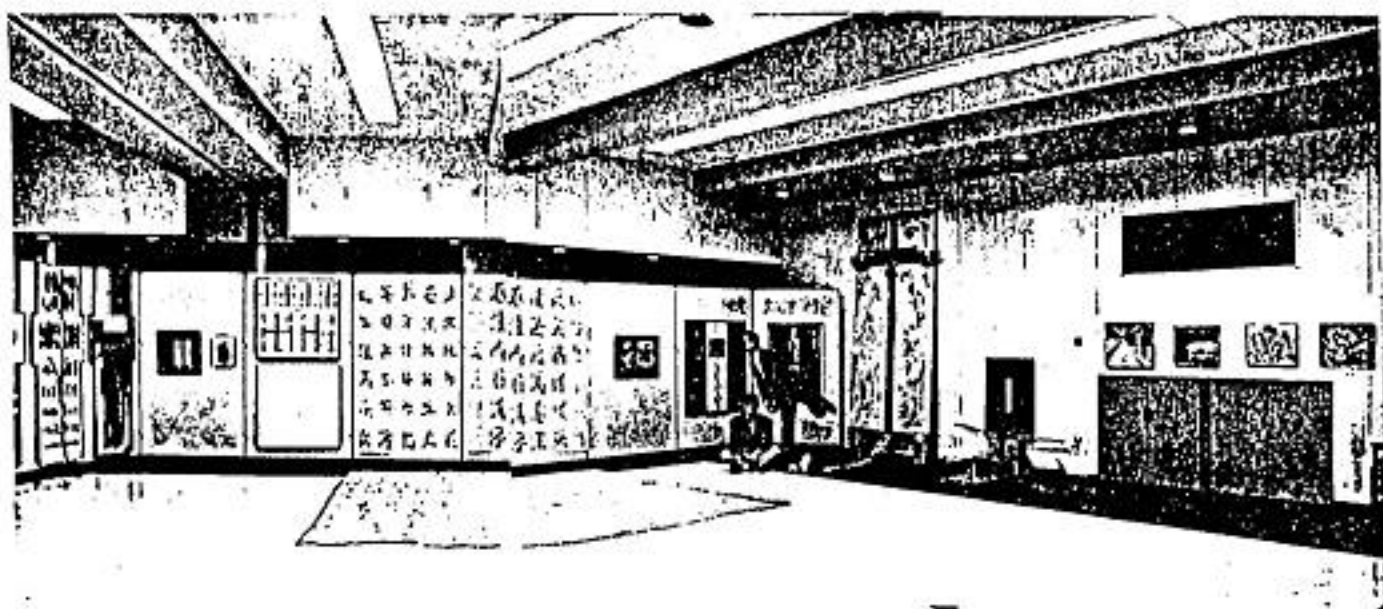
大橋 拓 パネル・モデリング
グペースト 90 角

白一色のレリーフ的作品。在校中から素材そのものに頼りがちであったが、今回もその傾向が強い。個人の情感と技術的な精確さが増せば、良い物が出来る可能性がある。問題は制作の量かな。

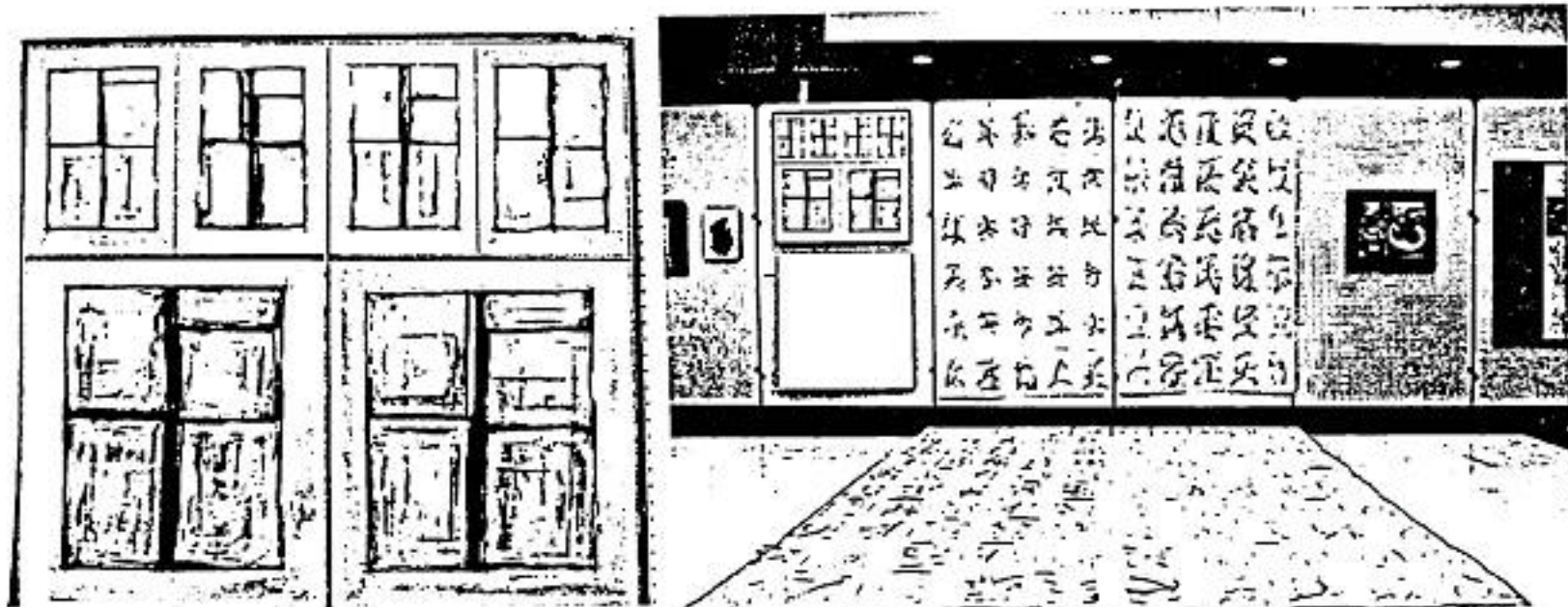


新井義史 200×60㍉ 5枚組・木、和紙、金属、ニカワ、コンテ他

「エピタフ5態」 昨11月、新道展企画「立体造形展」(札幌・大同ギャラリー) 出品作
10月の1ヶ月をかけて作ったもの。同じ外形の内部を全て違う方法と素材で組立ようとした。毎日疲れることなく制作しつづけることが出来た。



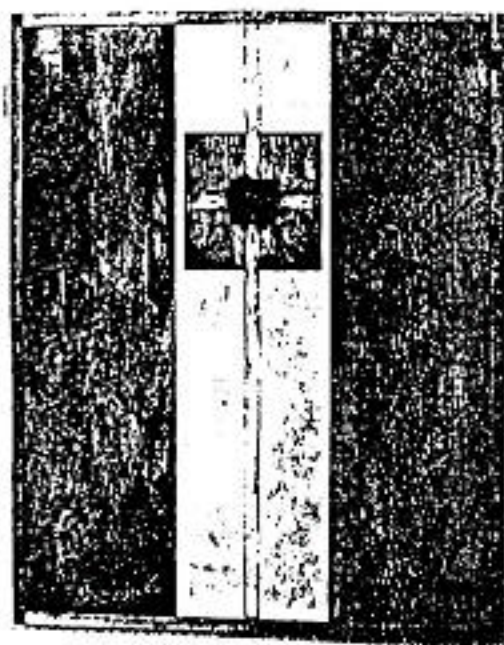
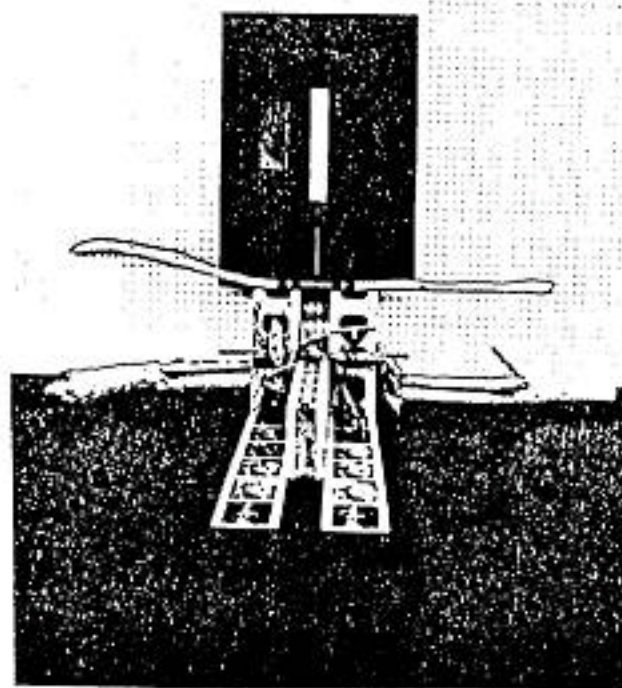
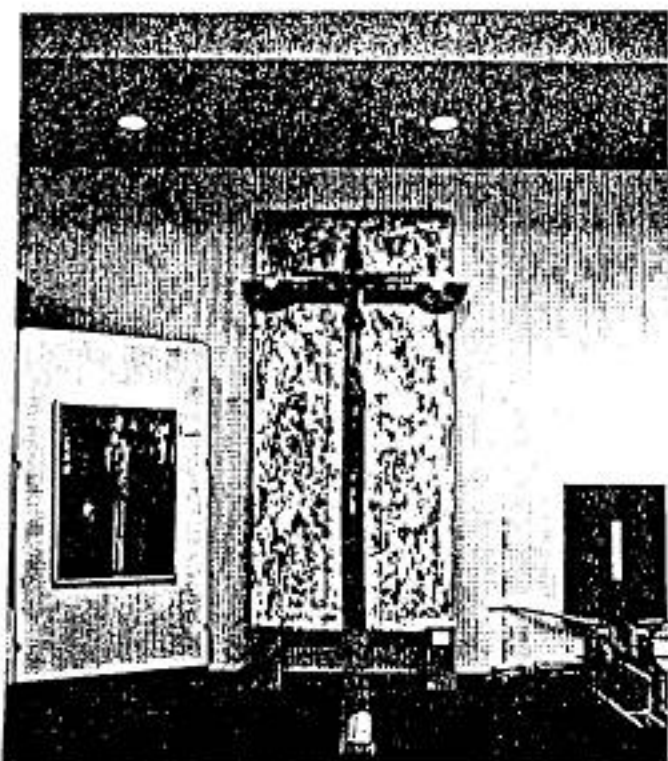
展示風景



藤井つかさ 紙・水彩、約 250×500 ㍉

「黄」「緑」(右)
卒業制作

結果的になかなか見応えのある作品に仕上がった。紙の余白を生かしたカリグラフィックでオートマチックなユニットの集合体である。壁と床を使用したことでダイナミックな感じを与える。本人はいたく御満悦だが、じつは本作品は、制作のきっかけから展示方法に至るまでほとんどが私のアドバイスによるものである。彼はあやつり人形であったに過ぎない。でもそのなかから何か得るものがあればそれで良い。今後はこうした肩肘張らぬ表現を地道に続けていって欲しい。



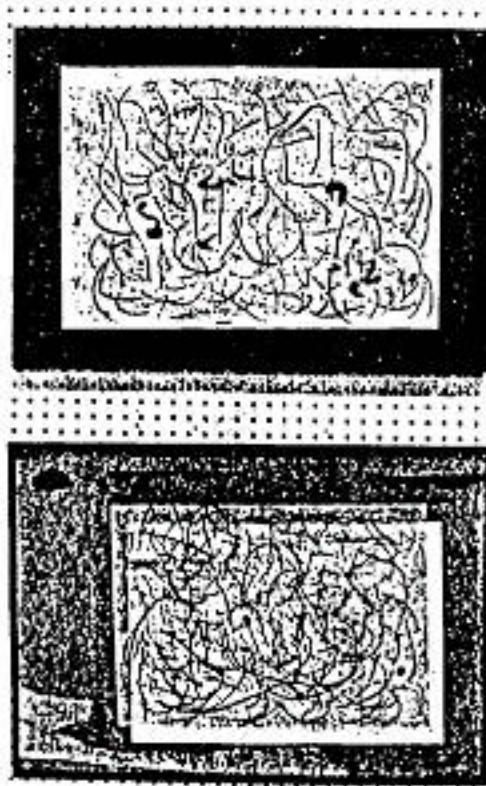
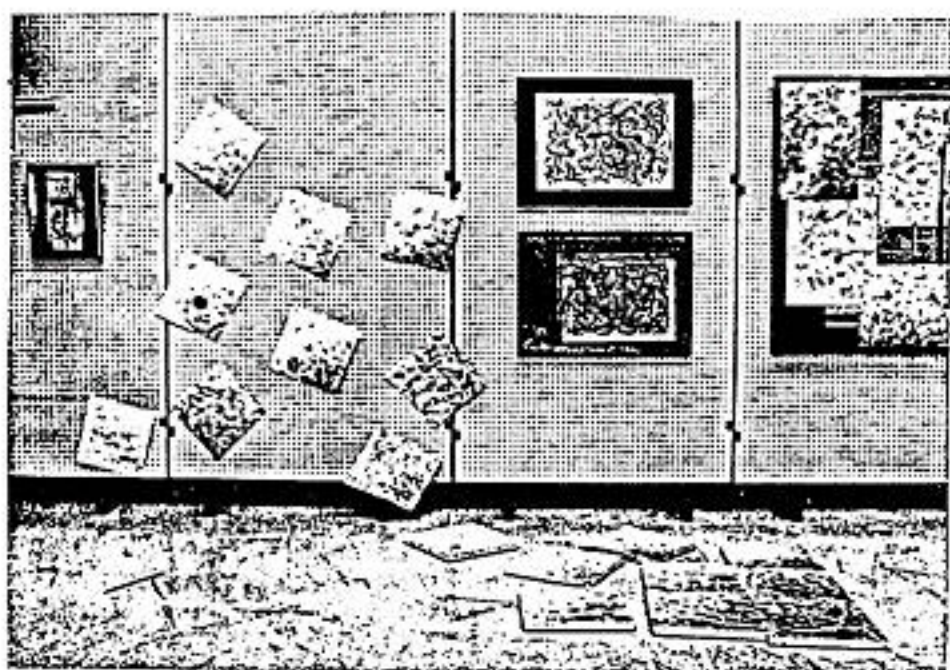
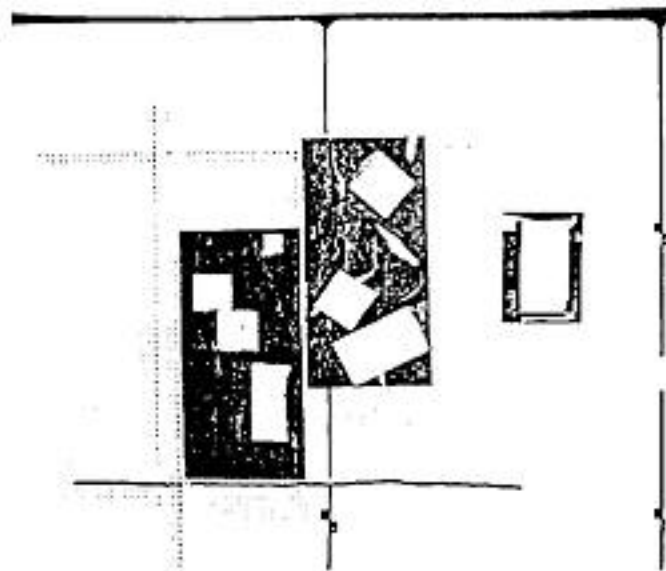
間山正樹 パネル・流木・アクリルテンペラ他

下の2点はアクリルテンペラ中心の平面表現、上の2点は平面と立体を組み合わせた造形である。

彼の平面表現は、潔癖症が災いして「描いては消し」の繰り返しで、なかなか実態が現れてこない。それに対して、流木などの具体物を使用した際には一気に形が明瞭になる。

両者をいかに組み合わせるかが今後の課題であるが、伝統工芸の「職人になりたい」などと本気で考えているところにどこか大きな時代錯誤を感じる。

まだあと1年ある。才能を生かす方向に自分自身で立ち向かって欲しい。



瀬尾理香 水彩・和紙・パネル・額装他

昨5月、アトリエに入ったばかりの彼女は、油絵で桜の花を描いていた。私は「コリャどうにもならんナ」と、じつは思った。しかし案に反して、数カ月のうちにゲンダイゲイジュツの入口に立つまでに変化した。こつこつと試行錯誤を繰り返してきてきたことによるのだろう。何よりも1年で油絵をクリアーして、その後は諸素材に目を向けはじめたことが、旺盛な制作量に繋がっているのだろう。基本的にはいまの方向で良い。今後は、作品を「いかに見せるか」にある。日本の情緒の中で、スケールの大きい作品に挑んで欲しい。

本年度もめでたく4年生5名の卒業が決まりそれぞれが学態を果立って行きました。各人の行き先を簡単に紹介しておきます。

●大久保正博 (函館出身・デ)
十畹あたりの小学校で臨教

●杉本恵悟 (鳥取出身・美教)
鳥取に戻り待機

●谷口隆 (広島出身・金工)
広島に戻り待機

●藤井つかさ (広島町出身・絵画)
陸別の町役場に就職

●市川隆 (滋賀出身・彫塑)
上越教育大に進学

○餅田利生 (広島出身・研)
苫小牧の弥生中に就職

教員への就職状況は、昨年同様好調のようです。しかし道外の採用に関してはなかなか厳しく、すんなりとはいかないようです。また昨年と異なり、釧路管内

への採用は他教科を含めてもほとんど無く多くが道央・道北の僻地にとばされているのが特徴といえます。

教訓——人間万事業翁が藤井つかさ

前回の通信でお知らせした奇跡のA登録——藤井くんが、なんと最終段階において不合格となる珍事が起きた。二度とこのような惨事を起こさぬために事の顛末を記しておく。

この一年間、彼はこれまでの杜撰な生活を深く悔いて、まともな学生として立ちなおった。残っていた一般の単位を試験当日復坊して、他の保留単位を復活させるなど細渡り的にはあったが、何とか卒業までこぎつくことができた。

しかし世間の壁はなお厚い。なんと登録への最終チェックである健康診断で、思いも奇らぬ地獄固めをくらってしまった。

極めて軽度ではあるが、色覚に問題があるとの診断が下されてしまった。これまでに幾度かの色覚検査でも発覚しなかった程のものであるから、もちろん彼に責任があるわけではない。しかし、この一件のみにても現在の基準では美術教員への門戸は閉ざされてしまうことになる。

そこで彼の就職活動が再度開始されるこ

ととなった。

- ① 自衛隊幹部候補生
自衛隊側は乗り気で、たびたび実家に獲得にきたとのこと。
- ② 裁判所職員
- ③ 臨時公募を受験—倍率も高く不合格
専門学校講師
- ④ 北見の商専なるたいそう荒れた学校での社会・国語の専任講師—内定
- ⑤ 陸別町の町役場職員—決定

こうして振り返ってみると、短期間なれどもいろいろと活動したものだとおもわれる。決定した④にしても、内定辞退者の補充のために、町の職員が大学に偶然たずねてきたことによるものと聞いた。藤井君曰く、「これからは町職員の時代ですよ」わけのわからぬ言葉を残しながらも、一時の悲壮感も抜け、さわやかに陸別へと旅立っていった。

波瀾に満ちたこの2ヶ月間の経緯をふまえ、幾分なりともたくましくなった彼の将来に幸多からんことを切に願う次第である。

ビデオライブラリー紹介 (その1)

美術関係のビデオが溜まりました。教育に興味にご利用されたいと思います。希望者には以下の規格でお送りしますので連絡して下さい。

- テープ Ⅱ VHSまたはSVHS
 時間 Ⅱ 1本60分まで編集可
 費用 Ⅱ テープ代プラス送料、ダビング手数料1本1160分までとし、五百円(学生への謝礼)

① イラスト入門 (各30分)

(NHK趣味講座)

- ・粟津潔(1)・(2)
- ・タナカノリュキ(1)・(2)
- ・黒田征太郎(1)・(2)
- ・熊井正・白井淳
- ・湯村輝彦(1)・(2)
- ・日比野克彦(1)・(2)
- ・これからのイラスト

② 一点中継つくる (各20分)

(NHK)

- ・工藤哲巳 紐カラージュ
- ・須田刻太 カラージュ
- ・小林敬生 木口木版
- ・宮田雅之 きりえ
- ・柳原義達 彫塑
- ・平山郁夫 日本画
- ・白髪一雄 アクションP
- ・靉 暁 アクリル
- ・船越桂 木彫
- ・戸谷成雄 木彫
- ・山下南風 染色
- ・田辺竹雲斎 竹工芸
- ・斉藤真一 絵画
- ・吉田穂高 版画
- ・関根信夫 造形
- ・栃折久美子 製本
- ・辻村ジュサプロー 人形
- ・藤島清治 影絵
- ・羽田登喜男 友禪
- ・福田繁雄 デザイン
- ・帖佐美行 彫金

③ 油絵入門 (各30分)

(NHK趣味講座)

- ・油絵の魅力
- ・油絵具と油
- ・用具を揃える
- ・形をつかむ
- ・色で描く
- ・静物を描く(1)・(2)
- ・果物を描く
- ・器物を描く
- ・花を描く
- ・人形を描く
- ・人物を描く(1)・(2)・(3)
- ・風景画(1)・(2)・(3)
- ・民家を描く(1)・(2)
- ・海を描く
- ・山を描く(1)・(2)
- ・自由に描いてみよう

④ 日曜美術館より (各50分)

- ・ボッス
- ・プリューゲル
- ・レオナルド
- ・ミケランジェロとラファエロ
- ・グリユネヴァルト
- ・フェルメール

- ・シャルダン
- ・レンブランド
- ・エルグレコ
- ・ワトー
- ・ブーシェ
- ・ジュリコー
- ・カラヴァッジオ
- ・クールベ
- ・ベックリン
- ・フリードリヒ
- ・プレートク
- ・ピアズリー
- ・ルドン
- ・コロー
- ・ミレー
- ・マネ
- ・モネ
- ・ルノアール
- ・ゴッホ
- ・ゴーギャン
- ・セザンヌ
- ・ドガ
- ・ドガとロートレック
- ・モジリアニ
- ・シレー
- ・モンドリアン
- ・カンディンスキー

- ・ミロ
- ・ピカソ
- ・マチス
- ・ダリ
- ・キリコ
- ・マグリッド
- ・ワイエス

⑤ モダンアートの百年(80分)

- ・機械天国
- ・権力の下に
- ・喜びの風景
- ・ユートピアへの夢
- ・自由への扉
- ・不安の中で
- ・街の中で
- ・かつての未来

(以下次号につづく)

後記

■ 記事

- 1/27 宗森君知り合いの結婚式のため、突然来剣。旅程は25、29。あくまでもつきあいの良さを感じる。アトリエにコーヒー・メーカーを寄贈していく。
- 2月・美術科追いコン。河村、大橋君参加。両君とも連絡不徹底により、アトリエの追いコンと勘違いしての参加だそう
- 3月・秋山君御成婚。
- ・ 確実な情報ではないが、山中君が退職したとのことである。コンピューター技師になるということだが、詳細は不明。

☆ 90年入試も終わり新入学生が決定しました。今年と同点のため1名多い合格者を得て、推薦を含めて中学校課程7名の大漁・・・と思いきや、3名の辞退者があり4名のみでスタート。相変わらずの低調ぶりです。

合格者の出身は札幌・長野・室蘭・山形各1名。

○ アトリエの新室生が2名決まりました。

- ・ 大江陽子 帯広出身
 - ・ 加藤 巨 浜中町出身
- 4年間山正樹・3年瀬尾里香の計4名となりました。

★ 復刊記年号ができませんでした。何らかの形で皆さんの刺激になれば幸いです。

※ 次回発行予定は未定。私の気分ですみますので、今回から「気刊」としました。